政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	3－4　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	3－4－1　国際化の推進

指標NO	92

指標名	外国人市民と日本人市民の互いの理解が進んでいる	単位	%

担当局（区）	総務局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	―	20.0	25.0	30.0	△
現状値	12.5	12.9	－	－	

目標設定の考え方	多文化共生社会の実現に向け、外国人市民と日本人市民の相互理解の重要性が高まっているため、日本語指導など外国人市民の生活支援などを推進することとして、目標値を設定した。

【達成状況の分析】

指標を構成する計画事業は、概ね目標を達成したが、住民基本台帳上の総人口数と外国人住民数は、平成23年度末が958,518人に対し21,372人、平成26年度末が962,545人に対し21,214人で、外国人住民が占める割合はともに約2.2%と概ね横ばいであり、指標も伸びてはいるものの微増にとどまっており、事業の充実が必要と考えている。

【課題及び今後の取組みの方向性】

2020年東京オリンピック開催に向け、6月に、フェンシング・レスリング・テコンドーの3競技が本市で開催されることが決定し、市民の関心がますます高まる中で、この機会を捉え、関係機関と連携したより効果的な事業を推進していく。

外国人市民と日本人市民の互いの理解が進むためには、互いを知ることが重要であることから、市民が関心を持って参加できる外国人との交流機会の創出や活動内容の紹介など様々なツールや手法を駆使して、積極的に市民への周知を図っていく。

具体的には、国際交流、多文化共生に理解のある、また、関心の高い市民に、本市の国際化の推進力として引き続き活躍していただくとともに、ボランティア団体等を含む関係機関との連携を強化し、より組織的な事業の展開を図るものとしたい。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	外国人市民の生活支援の推進	生活支援	－	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	外国人市民の自治会加入促進、外国人市民向け日本語指導内容の拡充	達　成	0
2	姉妹友好都市との交流促進	姉妹・友好都市交流	2市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市、ケソン市、モントルー市、アスンシオン市	達　成	0
3	姉妹友好都市との交流促進	青少年交流	3市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市 ノースバンクーバー市 モントルー市	達　成	0
4	雇用対策の推進	若年者・留学生向け合同企業説明会	－	1回／年	1回／年	1回／年	達　成	2,993

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市国際交流協会運営補助金	日本語学習支援	10,784人	42,500人	15,000人	11,235人	未達成	217,500
2	千葉市国際交流協会運営補助金	外国人相談	1,555件	5,450件	2,000件	1,393件	未達成	0
3	外国人留学生学習奨励助成補助金	留学生への学習奨励金の支給	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	達　成	840
4	国際交流・協力活動助成補助金	国際交流・協力等を行うボランティア団体への支援	12団体	39団体	15団体	14団体	概ね達成	2,292
5	国際交流プラザ管理経費	プラザ管理業務（利用者数）	19,850人	63,000人	22,000人	23,034人	達　成	22,226
6	外国人市民懇談会	外国人市民の参加者数	37人	120人	40人	20人	未達成	36
7	外国人市民向け情報誌製作	外国語版生活ガイドブックの製作	640部	600部	100部	350部	達　成	0

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	3－4　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	3－4－1　国際化の推進

指標NO	93

指標名	国際交流ボランティア斡旋件数	単位	件

指標の説明	国際交流ボランティアに外国人への通訳や日本語指導、ホームステイ等の活動を斡旋した件数	担当局（区）	総務局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	ー	650	850	1,000	△
現状値	541	573	－	－	

目標設定の考え方	グローバル化の進展による外国人市民の増加に伴い、国際交流ボランティアによる生活等支援の必要性の高まりに的確に対応していくため、値の向上を図られるものとして、目標値を設定した。

【達成状況の分析】

千葉市における外国人住民数は、目標設定時から横ばいで推移している状況である。
ボランティア斡旋件数は外国人住民数の増減に比例するものではないものの、その影響は大きく、結果として平成26年度末における中間評価では、H23年度現状値からの伸び率がH27年中間評価目標値に対し約29%であり、目標に達成していない状況にある。
その中で微増となっているのは、制度の周知に務めた結果であると分析している。

【課題及び今後の取組みの方向性】

2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、来日する外国人旅行者の増加が見込まれており、通訳を始めとするボランティアの活躍の場が増大することが予想されるため、これを機に事業の周知を行い、拡充を図る。
一方で、上記のとおり千葉市における外国人住民数は、横ばいで推移している状況であり、今後も同様の状況が続くことが予想される。そのため、外国人市民に対して、本市国際交流協会の存在・活動内容の周知に努めることにより、日本人ボランティアの活動機会の拡大を図る。
また、それとは逆に、日本人市民に対する世界各地の文化紹介・通訳等という形で、外国人ボランティアの活用を図り、もって斡旋件数の増を図る。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	外国人市民の生活支援の推進	生活支援	－	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	外国人市民の自治会加入促進、外国人市民向け日本語指導内容の拡充	達　成	0
2	姉妹友好都市との交流促進	姉妹・友好都市交流	2市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市、ケソン市、モントルー市、アスンシオン市	達　成	0
3	姉妹友好都市との交流促進	青少年交流	3市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市 ノースバンクーバー市 モントルー市	達　成	0

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市国際交流協会運営補助金	日本語学習支援	10,784人	42,500人	15,000人	11,235人	未達成	217,500
2	千葉市国際交流協会運営補助金	外国人相談	1,555件	5,450件	2,000件	1,393件	未達成	0
3	国際交流・協力活動助成補助金	国際交流・協力等を行うボランティア団体への支援	12団体	39団体	15団体	14団体	概ね達成	2,292
4	青少年交流事業補助金	青少年交流	1件（13人）	（55人）	1件（20人）	1件（20人）	達　成	6,587

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	３－４　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	３－４－１　国際化の推進

指標NO	94

指標名	千葉市を住みよいと感じる外国人市民の割合	単位	%

指標の説明	外国人市民へのアンケート結果のうち、子育てや学校教育、生活相談・地域との共生など9項目の肯定的回答の割合の平均値	担当局（区）	総務局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	―	65.0	70.0	75.0	◎
現状値	63.6	70.1	－	－	

目標設定の考え方	外国人市民が日本人市民と共生しながら、子育てや就業などの面で本市を住みやすいと感じる生活環境の向上を目指すこととして、目標値を設定した。

【達成状況の分析】

本市に対する外国人市民の感覚に関する設問であるため、個々の要因を把握するのは難しいが、指標を構成する設問のうち、「近所の住民が親切」と回答した外国人市民が約15%、「子育てがしやすい」と回答した方が約12%、「仕事を見つけやすい」と回答した方が約7%増加しており、結果として指標が伸びた。

【課題及び今後の取組みの方向性】

引き続き、各種取り組みを推進する。
なお、より効果的な意見をいただくため、外国人住民を対象としたアンケートの手法について再検討する。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	外国人市民の生活支援の推進	生活支援	－	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	外国人市民の自治会加入促進、外国人市民向け日本語指導内容の拡充	達　成	0

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市国際交流協会運営補助金	日本語学習支援	10,784人	42,500人	15,000人	11,235人	未達成	217,500
2	千葉市国際交流協会運営補助金	外国人相談	1,555件	5,450件	2,000件	1,393件	未達成	0
3	外国人留学生学習奨励助成補助金	留学生への学習奨励金の支給	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	達　成	840
4	国際交流・協力活動助成補助金	国際交流・協力等を行うボランティア団体への支援	12団体	39団体	15団体	１４団体	概ね達成	2,292
5	国際交流プラザ管理経費	プラザ管理業務（利用者数）	19,850人	63,000人	22,000人	23,034人	達　成	22,226
6	外国人市民懇談会	外国人市民の参加者数	37人	120人	40人	20人	未達成	36
7	外国人市民向け情報誌製作	外国語版生活ガイドブックの製作	640部	600部	100部	350部	達　成	0

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	3－4　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	3－4－2　大学・企業等との連携の推進

指標NO	95

指標名	この１年間に、地域の大学と関わる機会があった	単位	%

担当局（区）	総合政策局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価（H26末値）	H30中間評価（H29末値）	H34最終評価（H33末値）	達成状況
目標値	―	8.0	9.0	10.0	○
現状値	6.5	7.9	－	－	

目標設定の考え方	大学の公開講座受講者数の推移や、地域のまちづくりにおいて市と大学が連携して取り組む事業数が増加傾向にあること等を踏まえて目標値を設定した。

【達成状況の分析】

大学が地域向けの生涯学習講座を開催するなど、地域志向にシフトする中、計画事業がおおよそ達成できたことに加え、その他事業についても目標を達成できた。また、「市と大学が連携して実施した取組数」も中間評価の倍以上となる１６２事業となるなど、本市が全庁的に積極的に連携を進めた結果として、市民が大学と関わる機会が増加したため、おおよそ目標を達成したと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

中間評価はおおよそ目標を達成したものの、依然市民が地域の大学と関わる機会は多くない状況である。
少子超高齢化の進展や産業人材の育成など新しい行政課題についてさらなる連携を進めるとともに、本市周辺の大学とも連携を検討するなど、本市民に地域の知的資源である大学と関わる機会を増やすことで、市民の生きがいやキャリアアップ、地域に貢献できる機会等を増やしていく。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	まちづくり活動団体への助成（稲毛区）	まちづくり活動団体への助成	10件／年	5件／年	15件／年	区テーマ解決支援5件／年	未達成	745
2	若葉区まちづくり支援システムの活用	まちづくり支援システム	システムの構築	システムの充実	運用・充実	運用・充実　★	達　成	1,714
3	若葉区まちづくり支援システムの活用	普及啓発	―	出張講座	出張講座	普及啓発　出張講座　★	達　成	1,714
4	科学都市戦略の推進	科学フェスタ事業数	173事業／年	27事業／年増	200事業／年	364事業/年	達　成	0

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市・大学連絡会議	連絡会議	1回／年	3回	1回／年	1回／年	達　成	62
2	連絡調整会議（稲毛区）	会議開催	2回/年	2回/年	2回/年	2回/年	達　成	6

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	３－４　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	３－４－２　大学・企業等との連携の推進

指標NO	96

指標名	市と大学が連携して実施した取組数	単位	事業

指標の説明	市と市内14大学等が連携して実施した事業数	担当局（区）	総合政策局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	ー	80	110	140	◎
現状値	51	162	－	－	

目標設定の考え方	近年の連携事業の増加数を踏まえ、毎年度10事業程度増加するものとして目標値を設定した。

【達成状況の分析】

少子高齢化の進展や厳しい財政状況などを背景に、近年行政課題は増加するとともに多岐にわたる状況である。
こうした状況を背景に、各種計画事業・その他事業を概ね目標どおり推進するとともに、平成22年に千葉大学との包括連携協定締結を皮切りに、市内大学・短大とは、経済部やこども未来部など個別分野も含めて6件もの協定を締結し、大学連携を推進してきたところである。
また、平成26年度末現在で市内の１２大学・短大と千葉市・大学連絡会議を組織し、毎年、市長と学長によるトップレベルの会議を開催し、市政に関わる各種課題について意見交換を実施し、この結果を具体的に事業に反映するため、庁内関係課を含めて対応を図ってきた。
これらの大学連携を推進する仕組みを有効に活用することで、各種課題を解決するための連携が進んだ結果と考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

市内の大学・短大と大学連携会議等を活用し、時機に応じた包括的な課題について意見交換を行うなど、引き続き本市の課題解決のための連携を推進する。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	まちづくり活動団体への助成（稲毛区）	まちづくり活動団体への助成	10件／年	5件／年	15件／年	5件/年	未達成	8,877
2	若葉区まちづくり支援システムの活用	まちづくり支援システム	システムの構築	システムの充実	運用・充実	運用・充実　★	達　成	1,714
3	科学都市戦略の推進	科学フェスタ事業数	173件／年	27件／年増	200件／年	364事業/年	達　成	0

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市・大学連絡会議	連絡会議	1回／年	3回	1回／年	1回／年	達　成	62
2	千葉市・大学等共同研究	共同研究事業の実施	24件	6件	30件	30件	達　成	4,686
3	連絡調整会議（稲毛区）	会議開催	2回/年	2回/年	2回/年	2回/年	達　成	6

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	３－４　多彩な交流・連携により新たな価値を創る
施策	３－４－２　大学・企業等との連携の推進

指標NO	97

指標名	大学・企業等との連携協定数	単位	件

指標の説明	市と連携協定を締結した大学・企業等の数	担当局（区）	経済農政局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	―	8	10	12	◎
現状値	7	12	－	－	

目標設定の考え方	2年ごとに1件ずつ大学または企業と連携協定を締結していくとし、目標値を設定した。

【達成状況の分析】

大学及び企業と積極的に連携協定を結んできており、H27年中間目標値を超えることができた。内訳は以下のとおり。
・H23年度末（7件）：千葉大学、淑徳大学、（公社）こども環境学会、（独）放射線医学総合研究所、（独）都市再生機構、イオン㈱、千葉銀行
・H25年度末（9件）：上記プラス、植草学園、東京情報大学
・H26年度末（12件）：上記プラス、三井不動産、セブンーイレブン・ジャパン、敬愛大学

※「経済活性化」という要素を含む協定が対象。

【課題及び今後の取組みの方向性】

これまでは地元の大企業や大学等を連携協定の対象としてきたが、今後は、地域経済活性化に向けて、効果の検証についても検討していく。また、大企業に限らず中小企業も対象とし、包括的な協定だけでなく、目的を絞った協定や、期間限定の協定など、協定の形態も柔軟にし、更なる指標の向上を目指していく。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市・大学連絡会議	連絡会議	1回／年	3回	1回／年	1回／年	達　成	62

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	５－１　都市の魅力を高める
施策	５－１－２　都市の国際性の向上

指標NO	148

指標名	市の国際的なイメージが向上している	単位	%

担当局（区）	総務局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	―	25.0	30.0	35.0	△
現状値	19.3	21.2	－	－	

目標設定の考え方	幕張メッセなど都市資源を生かした地域活性化や国際経済交流、姉妹・友好都市交流などを通じ、本市の認知度やイメージ向上をめざすこととし目標値を設定した。

【達成状況の分析】

指標は微増したものの、目標値には届かなかった。
市民が「国際的なイメージの向上」を感じる場面は、在住外国人や外国人観光客の増加や、外資系企業の進出、国際的イベントの開催、またメディアへの露出など、多様であり、複合的な要因が作用していると考えられる。
国際経済交流の推進としては、当初予定していた企業商談会は、企業側の要望がなく実現できなかったが、姉妹都市・モントルー市（スイス連邦）の物産展に市内企業と参加し、B（企業） to C（消費者） 型のイベントで、地元住民に直接千葉市のPRを行った。海外進出企業向けセミナーは、相手国大使館側との調整で、26年度実施の予定が、ずれ込み27年度6月に実施した。

【課題及び今後の取組みの方向性】

市民に、「国際的なイメージの向上」を実感してもらうためには、まず、本市が様々な視点から取り組んでいることについて知ってもらうことが重要である。そのため、市政だよりやインターネット、各種メディアの活用など周知に努めながら、引き続き、関係機関と連携し、より効果的な事業の推進を目指す。
一方、対外的にも千葉市をPRしていくことが重要であり、これまで築いてきたネットワークを活用した情報発信（ニューズレター）や海外から入手した情報の提供についても検討し、市民が国際化を実感できる取組みを推進したい。
国際経済交流については、日本貿易振興機構（ジェトロ）や国等関係機関との情報交換・連携をさらに強化するだけでなく、より多くの個別企業とのコミュニケーションを深め、市内企業の需要掘り起しを強化していく必要がある。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	外国人市民の生活支援の推進	生活支援	－	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	・外国人市民向け日本語指導内容の拡充 ・外国人市民の自治会加入促進	外国人市民の自治会加入促進、外国人市民向け日本語指導内容の拡充	達　成	0
2	姉妹友好都市との交流促進	姉妹・友好都市交流	2市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市 ケソン市	ヒューストン市、ケソン市、モントルー市、アスンシオン市	達　成	0
3	姉妹友好都市との交流促進	青少年交流	3市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市、ノースバンクーバー市、モントルー市	ヒューストン市 ノースバンクーバー市 モントルー市	達　成	0
4	国際会議開催への助成	助成	－	3件	3件	3件	達　成	1,961
5	国際経済交流の推進	企業商談会	―	1回/年	1回/年	0回/年	未達成	795
6	国際経済交流の推進	海外進出企業向けセミナー	―	2回/年	2回/年	0回	未達成	
7	国際経済交流の推進	インキュベート施設への入居支援	―	1社	1社	1社	達　成	
8	雇用対策の推進	若年者・留学生向け合同企業説明会	－	1回／年	1回／年	1回／年	達　成	2,993

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市国際交流協会運営補助金	日本語学習支援	10,784人	42,500人	15,000人	11,235人	未達成	217500
2	千葉市国際交流協会運営補助金	外国人相談	1,555件	5,450件	2,000件	1,393件	未達成	0
3	外国人留学生学習奨励助成補助金	留学生への学習奨励金の支給	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	1件（4人）	達　成	840
4	外国人市民懇談会	外国人市民の参加者数	37人	120人	40人	20人	未達成	36
5	外国人市民向け情報誌製作	外国語版生活ガイドブックの製作	640部	600部	100部	350部	達　成	0

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	５－１　都市の魅力を高める
施策	５－１－２　都市の国際性の向上

指標NO	149

指標名	国際会議開催件数	単位	件／年

指標の説明	市内で開催されたJNTO基準（主催者が国際機関・国際団体又は国家機関・国内団体で、参加者総数50名以上、参加国が日本を含め3カ国以上、会期1日以上の会議）による国際会議の件数	担当局（区）	経済農政局

区　分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	ー	50	60	70	△
現状値	22	30	－	－	

目標設定の考え方	会議主催者への財政的支援や本市の立地の利便性のPR等を通じ、早期に東日本大震災前の水準を回復し、平成33年度末には過去最高の実績を目指す。

【達成状況の分析】

H27中間評価については目標値を下回ってしまった。原因としては、近年、国際会議の誘致競争は厳しさを増しており、会議開催助成制度や支援制度の充実だけでなく、都市の魅力を効果的にブランディング出来ている都市が誘致活動上有利であったと考えられる。今後は、本市のブランディングを構築し、主催者やステークホルダーに対し国際会議開催のメリットなどの更なる情報発信が必要になってきている。

【課題及び今後の取組みの方向性】

本市のブランディング構築及び国際会議開催のメリットなどの情報発信については、グローバルMICE強化都市への国からの支援を活用し、ターゲットマーケットの絞り込み、海外の展示会への積極的な参加や、海外情報誌への掲載などに取り組んでいく。

指標を構成する事業

計画事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	国際会議開催への助成	助成	－	3件	3件	3件	達　成	1,961

その他事業

（千円）

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費